

令和2年度 福井県立奥越特別支援学校 学校評価書

【担当部】 具体的取組	項目	成果と課題	改善策・向上策
【図書研究部】 児童生徒が主体的に活動し、学び合って学習を進めるよう、支援環境を整え、協同する場面や多様な評価の機会を設定した授業づくりに取り組む。		<p>今年度も、「一人一人がいきいきと活動できる授業づくり～主体的に参加し、学び合う授業を目指して～」という研究テーマで、児童生徒が主体的に活動し、学び合って学習を進めることができるための環境設定や場面設定、支援の工夫などについて考えながら普段の授業づくりにあたった。特に、教員授業参観週間や外部専門家活用事業では、授業参観で気付いたことや改善策を授業者にフィードバックし、授業力の向上を図った。</p> <p>また、新型コロナウイルス拡大に伴う今年度の喫緊の課題として、臨時休校に備えた取り組みを新たに行った。月1回の学部研究の日で全教員を遠隔授業グループと動画作成グループの2つに分け、臨時休校下においても児童生徒一人一人がいきいきと活動できるような学習環境の提供を目標に教材開発を行った。授業づくりの研究は以前から行ってきた反面、遠隔授業や動画教材に対する評価や反省はこれまで行ったことがなかったため、どのようにそれらの質を向上させることができるかが今後の課題である。</p>	<p>感染症の影響が今後どれだけ続くのかが未知数であるが、感染が収束に向かうならば、普段の授業づくりに軸足を戻し、外部専門家活用事業などを活用しながら授業参観や事例相談などを1年通して行うことで、実践を深めていきたい。</p> <p>もし、感染症が拡大するようであれば、動画教材をどのように児童生徒が活用するのか、またオンライン授業を児童生徒の実態に合わせてどのように進めていくかなど、休校中でも学びの質を保障できるように検討を進めていきたい。</p>
【小学部】 児童が主体的に活動し、学び合って学習を進めるよう、支援環境を整え、協同する場面や多様な評価の機会を設定した授業づくりに取り組む。	教育課程・学習指導	<p>今年度は、児童が主体的に活動し、学び合って学習を進めていくための授業づくりに取り組んだ。各教師が自分の担当する授業において、単元設定や授業展開の吟味、環境設定の工夫や支援ツールの作成を行った。</p> <p>特に小学部では、児童が主体的に活動に参加することができるよう、物理的環境の整備、人的支援環境の見直し、個のニーズや特性に応じた支援の充実を大切に<u>した実践を行った</u>。児童が活動するうえで必要な情報を精選した環境を設定することで、児童一人一人が見通しをもって安心して活動に取り組む姿が多く見られた。また、授業のなかで、生活に結び付けた具体的な活動を多く設定することで、成功体験を積み重ね、実際の生活に必要な力を身につけることができた。</p> <p>今後は、より対話的な深い学びに向かう授業づくりを目指し、豊富な人とのやりとりや多様な評価を大切にしていける必要がある。</p>	<p>児童一人一人の特性やニーズを考慮して、主体的で対話的な学びに向かう授業づくりを継続して進めていく。そのために、児童が教師や友達と豊富なやりとりができる授業づくりを目指す。集団の中で自分の役割を果たすこと、それぞれの役割を通して互いにやり取りをすることで仲間を意識したり、学び合う良さに気づいたりすることができるような実践を進めていく。また、自分自身や友達の下さに気づいたり、成長を実感したりすることができるよう、振り返りや多様な評価の在り方についても考えながら、実践を進めていきたい。</p>
【中学部】 生徒が主体的に活動し、学び合って学習を進めるよう、支援環境を整え、協同する場面や多様な評価の機会を設定した授業づくりに取り組む。		<p>生徒が主体的に活動できるように、学習面や生活面の目標と活動への取り組み方をともに考え、振り返りを日々丁寧に行った。目標の達成につながる方法を考えながら適切に自己評価をしようとする姿が見られた。少人数ながら多様な生徒がいる中で、作業活動や学級活動では、協同して働いたり話し合ったりする活動場面を多く取り入れた。それぞれのよさや個性を尊重しながら声を掛け合う姿が様々な場面で見られるようになった。</p> <p>自立活動の時間や日常生活全般を通して、コロナ禍における新しい生活様式を身に付けるための学習や環境設定に取り組んだ。握手やハイタッチなどのスキンシップはなくても、他者と適切かつ円滑な関係を築くことができる挨拶の仕方や協力・激励・感謝などの表現の仕方、距離の保ち方について自ら考え生徒間で気を付けて行動する様子が見られた。地域交流などの活動制限もあり多様な評価の機会を設定した授業づくりには課題が残った。</p>	<p>例年行っていた多くの地域の方を招いての販売活動は、今年度はできなかったが、教職員対象に販売を行ったりゆめおれ勝山への委託販売を行ったりした。また新たに、老人介護施設を訪問し商品を贈呈する活動なども行った。</p> <p>来年度もコロナ禍における学習活動の制限が続くと思われる。直接的な交流は取れなくても、今年度蓄積した遠隔配信の技術を活用した新しいかたちの交流を探り、販売活動や居住地校交流に取り組んでいきたい。また、生徒の活動や作品、商品等を知ってもらえる新たな地域の販路や場所を拡げ、地域に目を向けた多様な評価の機会を探っていきたい。</p>
【高等部】 生徒が主体的に活動し、学び合って学習を進めるよう、支援環境を整え、協同する場面や多様な評価の機会を設定した授業づくりに取り組む。		<p>今年度は、コロナ禍において、新しい生活様式での授業づくりがテーマになった。感染を防ぐために、感染しやすい活動に代わる学習活動や校内外でのオンライン授業を実施するなど、3密を避けながら主体的な学習活動を行えるよう、支援環境の整備に努めた。生徒は感染対策を意識しながら何を目的にどのようなことができるのか、安全に安心してどのようにできるのかを教師と一緒に考え、協同して取り組んでいく姿が見られた。地域との交流が制限される中、校内の他学部の教員、作業学習における外部講師や委託先と受注先、現場実習における実習先など、貴重な評価の機会を得て、生徒たち自身が学びや成長と課題を捉える機会にすることができた。</p> <p>また、生徒一人一人の自立と社会参加に目を向ければ、<u>病弱(精神疾患を含む)の生徒の「自立活動」における授業づくりも大きなテーマになった</u>。生徒の特性に応じて、健康の保持や心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションなど、学習上や生活上の困難を主体的に克服していくための「自立活動」の授業づくりに取り組んだ。</p>	<p>来年度以降もコロナ禍は継続すると考えられ、地域の感染の状況を見ながら、段階に応じて3密を避けた対面授業とオンライン授業のハイブリッド型の授業づくりを行っていく必要がある。コロナ禍における学びへの不安を軽減し、学びの質を保証していきたい。</p> <p>また、生徒一人一人の自立と社会参加に目を向ければ、生徒個々に身に付けさせたい資質や能力を念頭に置いて授業づくりを進めていく必要がある。特に、<u>病弱(精神疾患を含む)の生徒には、「自立活動」の授業を通して自己理解を促し、進路を主体的に選択していけるよう、個に応じた支援をきめ細やかに行っていく</u>きたい。</p>

【担当部】 具体的取組	項目	成果と課題	改善策・向上策
【教務部】 地域の人的・物的資源を活用したり、社会教育との連携を図ったりする。	教育課程・学習指導	<p>開校以来、「地域に開かれた学校」づくりを目指して、学習活動の計画・実施を行ってきたが、今年度は、<u>新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、公共交通機関を使った校外学習や地域へ出掛けての買い物学習など、多くの活動が中止あるいは制限されてしまった。また、地域の方を招いての活動なども設定することが難しい状況であった。</u></p> <p>後期になって、ようやく保護者を招いての学校祭を開催したり、スクールバスを使った校外学習を実施したりすることができた。また、教員向けではあるが、児童生徒が作った製品や野菜・花の苗、パンなどの校内販売ができた。</p> <p><u>校外学習の機会が少なかったこともあり、それらを積極的にホームページや通信などで保護者に情報発信していく機会が少なかった。</u></p>	<p>来年度もコロナ感染症拡大予防の対策は継続される。そのため、これまで行ってきた「<u>地域に開かれた学校</u>」づくりを改めて捉え直すことが必要だと考える。具体的には、外部講師の招聘等や地域の方との対面による販売活動などの、直接的なやりとりを見直す。</p> <p>①外部招聘等については、<u>遠隔機器を用いたオンライン</u>によるやりとりが有効であると考ええる。</p> <p>今年度、現場実習の事前学習として、施設の作業現場とつないだライブ中継を行ったが、臨場感があり、質問もその場でできるなど、生徒にとってもわかりやすいものであった。現場実習先との打ち合わせについても、この方法が活用できると考える。</p> <p>②販売については、間接的なやりとりとはなるが、<u>製品の無人販売を行ったり、委託販売等を増やしたりして、製品を通して地域とのつながりを太くしていきたいと考える。</u></p> <p>実際に今年度、平成大野屋での委託販売を新たに始めたり、大野市役所との連携で「安産守」の製品づくりなどを行ったりした。これらの例のように、いわゆる「made in 奥越」の製品が地域に広がっていくことで、地域貢献や地域に開かれた学校づくりを目指していきたい。</p>
【渉外部】 学習会の計画を立てたり、広報誌を通じて学習活動の様子を伝えたりする。	地域交流	<p>進路支援部との共催で9月に「進路学習会」、相談支援部との共催で12月に「家族について語る会」を実施した。研修交流委員会を中心に保護者に参加を呼び掛け、<u>進路学習会では15名、家族について語る会では7名が参加され、概ね好評であった。</u></p> <p>コロナウイルス感染症の拡大防止を前提に、期日の検討や広報の方法を工夫し、さらに多くの保護者の方々に参加していただけるよう計画していく必要がある。</p> <p><u>学習の成果や学校での様子を発表する機会が制限されるなか、広報誌を通じて周知できた。</u></p>	<p>「進路学習会」は、小学部・中学部・高等部とも1・2年生の保護者の参加が多かった。進路に対する関心の現れであると取れる。興味関心の高い事項をアンケートを取るなどして的確に把握し、学習会の内容等を進路支援部と検討していきたい。</p> <p>「家族について語る会」については、<u>周知の方法や機会を検討し、保護者の参加者数増加に繋げていきたい。</u></p>
【生徒指導部】 学校行事や全校集会を学習発表および異年齢交流の機会と捉え、積極的な取り組みや参加を促す。	生徒指導	<p>学校生活における新しい生活様式の中での学校行事や全校集会においては3密を避けながらを基本として会場を分散したり開催時間帯をずらしたりして縮小する方法でも実施できてよかった。<u>学習発表の場としての保護者観覧ができなかったのが今後の課題として検討していきたい。</u></p>	<p>コロナ禍が続くと、今年度のような形式で開催するしかないと考えられる。発表の集団(人数)、時間、方法(動画編集・リモートなど用いる)を工夫する必要性は高い。</p>
【保健指導部】 災害時の保護者への引渡し訓練を実施し、マニュアルを整備する。	安全管理・指導	<p>学校祭終了に合わせて、引渡し訓練を行った。3密を避けた訓練ということで、小学部と中・高等部に分けたこと、中に入れる保護者の数を限定したこと、児童の待機場所を教室にしたことなど、マニュアルをもとに工夫して行った。</p> <p>学校祭後ということで、大きな混乱もなくメール送信後30分程度で保護者へ引き渡すことができた。今回は、引渡しの会場準備をスムーズにできるよう前もって準備してあったため、災害時は誰が指示を出して動くのかは今後の課題である。また、最後の一人を確実に引き渡した後の終わりが不明だったため、マニュアルを見直したい。</p>	<p>教職員については、引渡しマニュアルを年度初めに確認してもらおう。保護者については、引渡し方法を理解してもらえるよう、紙面で伝えたり、PTA総会で説明したりする。次年度は、<u>災害時により近い形で訓練を設定したい。教員は、本部を立ち上げるころから行い、保護者はメールを確認して学校へ迎えにくる訓練を実施したい。</u></p>
【相談支援部】 地域の小・中学校への教育相談を通して学級担任、通級担当者、特別支援教育コーディネーターを支援する。	地域支援	<p>教育相談対象地区(奥越、上志比)の小中学校へのアンケート結果から、定期的な巡回相談等を行うことができたことで「<u>すぐに対応してもらえる」「いざというときに身近に相談できる</u>」機関として定着しつつあることが伺える。児童生徒とのかかわり方や教材教具の提供もできたことで「参考になった」、進路相談については生徒や保護者へ「必要な情報の提供ができた」と回答が得られた。アセスメントについてもすぐに対応できる教育相談機関として評価された。</p> <p>一方で巡回相談、支援会議の調整等で地域の学校が苦慮しているという理由から、<u>教育相談の時間や人員の増を要望する意見も見られた。</u></p> <p>今後も定期的な巡回相談等が継続できるよう相談支援部内での情報の共有を図っていききたいと考える。</p>	<p>福井県特別支援教育センターの奥越担当所員と情報交換を行い、奥越地区の小中学校、高等学校における教育相談の状況を確認できている。今後も連携を行い、状況を見極めて教育相談を行っていくことが大切であると考え。そのためには特別支援学級、通級における担当者のニーズを把握し必要な情報を提供できるような体制が必要であると考え。特別支援教育コーディネーターだけでなく、本校の職員の専門的な力も活用するなど学校全体として地域の特別支援教育のセンターの機能を発揮していけるとよいと考える。</p>
【進路指導部】 奥越地区の企業を対象とした学校見学を継続して行う。	進路指導	<p>今年度は、<u>新型コロナウイルス感染症対策の一環として、来校者の方を制限したため、企業の方を対象とした学校見学は中止とした。</u></p> <p>本校生徒への理解を深めていただき、職業体験の受け入れ先や雇用先の拡大を目指すという目標は達成できなかった。</p>	<p>次年度以降、新型コロナウイルス感染症が収まった頃に奥越地区の企業の方を対象にカフェを体験していただいたり、生徒の作業の様子を見学していただいたりする見学会を計画していきたい。</p> <p>学校見学が難しい場合は、生徒の作業の様子やカフェの様子を動画で撮影し、職業体験の受け入れ先や雇用先の拡大に活用(個人情報に留意しながら)していきたい。</p>